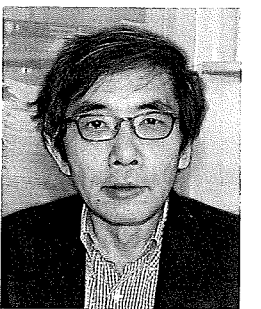


世界に広がる秋田犬ブーム

拓殖大学海外事情研究所教授 名越 健郎



Kenro Nagoshi

わが国固有の犬種で、天然記念物の秋田犬の人气が今、世界的に高まっている。2009年に公開されたハリウッド映画の影響が大きい。外国人観光客のインバウンドの増加など、日本のソフトブランド人気を反映している。秋田犬の本場である秋田県大館市は来年、秋田犬と触れ合える「ハチ公駅」をオープンする予定で、「聖地」を売り込もうとしている。

第2、第3のハチ公

秋田犬といえば、戦前の渋谷駅で飼い主の上野英三郎・東大教授を死後も待ち続け、忠誠心を発揮したハチ公の物語が有名だが、第2、第3のハチ公が次々に登場している。

2016年夏、スペインのバルセロナで、入院中の飼い主を1週間、病院の玄関で待ち続けた秋田犬が全国ニュースになった。飼い主の若い女性、サンドラさんが盲腸で緊急入院すると、愛犬の秋田犬「マヤ」は家に戻らず、退院まで待ち続けた。病院スタッフがこの話をフェイスブックに投稿すると、テレビ局の取材が殺到し、マヤは一躍スペインのスターになった。

ブラジル南部のカサノバでも昨年、飼い主の画家が死去した後も、毎日飼い主を偲んで散歩道を歩き回る秋田犬「トール」が話題になった。トールの散歩は毎朝の儀式になり、住民が餌や

水を与えているという。

両国の新聞はこれらのエピソードを伝える際、戦前のハチ公の逸話を紹介し、秋田犬が飼い主に忠誠心を発揮する犬であることを強調している。

海外での秋田犬人気は、大館市にある秋田犬保存会への犬籍登録件数の増加に現れている。近年の登録数は国内が年間2000頭台で推移しているが、海外は急増しており、2010年の73頭が15年は1267頭となり、16年は3922頭と日本国内を抜いた。10年に世界の7カ所だった海外支部もその後、ロシアや中国などに増え、現在は17カ所だ。フランスや中南米に支部を作る動きも出ている。イタリアやロシアでは秋田犬の頭数は日本をしのぐといわれる。秋田犬らしさを競って毎年5月3日に大館で行われる秋田犬本部展は、外国人の秋田犬ファンでごった返すようになった。

プーチン大統領も飼育

秋田犬人気に火が付いたのは、09年に公開されたリチャード・ギア主演のハリウッド映画「ハチ―約束の犬」のヒットが大きい。松竹映画のリメイクながら、抑制が効き、日本版よりも感動的に仕上がっている。世界の愛犬家がこの映画を見て涙を

流し、秋田犬への関心が一気に高まった。

日本もペットブームとはいえ、住宅事情から大型犬は敬遠され、小型洋犬が主流だ。日本人はペットにかわいさを求めるが、欧米の愛犬家は忠誠心など犬に哲学を求める傾向があり、秋田犬はそれにマッチした。

ロシアでは、12年のプーチン大統領と佐竹敬久・秋田県知事のペット外交が話題を呼んだ。大統領は贈られた雌の秋田犬を「ゆめ」と名付け、安倍首相との首脳会談に連れてくるなど、秋田犬外交を展開した。寒さに強く、忠誠心のある秋田犬はロシアに適しており、「大統領の犬」として人気を呼んだ。

中国も経済成長に伴い、ペットブームが起きており、中流層以上では高級犬が人気だ。少し前まではシェパードだったが、現在は秋田犬で、血統書付きの秋田犬が1000万円で売買されたとの情報もある。しかし、雑種を本物の秋田犬として売ったり、偽の血統書が出回るなど、中国特有の問題も起きているらしい。

米国では、戦後の日本占領で駐留した将兵らが秋田犬を気に入って持ち帰り、シェパードなどの大型犬と交配してアメリカン・アキタという全く異なる犬種が登場した。ロサンゼルスで歯科医を開業し、保存会の米国支部長を勤める日系2世のステイブン・タカマツ氏は「秋田犬とアメリカン・アキタは全くの別種であり、支部は純粋な秋田犬の維持を最も重視している。会員は秋保の犬同士だけの交配を進め、子犬は必ず保存会に登録するようルールを決めている」と話した。

大館市が秋田犬施設建設

1927年に大館市に設立された秋田犬保存会は会則で、「秋

田犬を世界の犬種にする」とうたっているが、その目標がいよいよ実現に近づいた。

保存会会長を務める遠藤敬衆院議員（日本維新の会）は、「日本国内の秋保の会員は高齢化が進み、今後大幅な増加は望めない。一方で、海外の秋田犬人気は高まり、若い世代に秋田犬愛好者が多い。保存会の犬籍でない秋田犬とは認めないことにしているが、日本人の考え方を押し付けるわけにはいかない。各国のケネルクラブの犬籍も認めるようにしたい」と述べ、秋田犬のグローバル化に対応する考えを示した。

それは、柔道が「JUDO」になった経緯と似ている。柔道は日本発祥の格闘技だが、日本の柔道愛好家は20万人で、フランスやブラジル、ロシアの方がはるかに多い。柔道がグローバル化で国際ルールを採用したのと同じパターンだ。

しかし、秋田県大館市が秋田犬の聖地であることに変わりはない。大館市の福原淳嗣市長は観光誘致の起爆剤として、JR大館駅前に戦前の渋谷駅を再現し、秋田犬と触れ合える施設となる「ハチ公駅」を建設することを決め、今春から建設が始まる。

事業費は約8億円で、国、県の交付金などを活用する。常駐する数頭の秋田犬と触れ合えるスペースが設けられ、秋田犬と記念撮影できるコーナーや地元の名産を扱う物販スペース、観光案内所も設置する。大館にある秋田犬保存会とともに、秋田犬の総本山としての役割を担うことになる。

秋田犬については、年末に出版された『秋田犬』（宮沢輝夫著、文春新書）がお勧めだ。秋田犬の世界的人気や歴史、科学的分析に加え、ハチ公をめぐる謎に肉薄しており、戊年にふさわしい著作になっている。（2月1日）